

外来魚の最新駆除マニュアルができました！

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-06-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 坪井, 潤一 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006569

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



外来魚の最新駆除マニュアルができました！



【研究課題名】
水産庁委託「外来魚抑制管理技術高度化事業」

【実施年度】平成24～26年度

内水面研究センター 漁場管理グループ
坪井潤一

目 的

1970年代以降、北米原産のオオクチバス、コクチバス、ブルーギル（以下、外来魚）は、日本の河川、湖沼に盛んに放流されるようになり、在来魚を捕食することによって、内水面の水産資源を減少させてしまいました。現在でも、その被害は深刻であるため、内水面研究センターでは、独自の研究開発を行い、新しい駆除法を開発してきました。それらの成果に加え、全国内水面漁業協同組合連合会が集積した駆除法や過去の水産庁事業の成果を取り入れて最新マニュアルをまとめ、平成27年3月に水産庁HPで公開しました（参考文献のURL参照）。

方 法

平成24年度から3年間にわたり、北海道、新潟県、長野県、埼玉県、滋賀県、全国内水面漁業協同組合連合会とともに、外来魚の駆除技術の高度化について研究開発を行ってきました。その中でも、滋賀県曾根沼でのオオクチバスの減少と在来魚の復活に効果がみられた電気ショックボートによる捕獲事例をご紹介します。

結果及び波及効果

電気ショックボート（図1）は、電撃捕魚器本体と数個のユニットに分解される船で構成されています。船は解体し、運搬することができます。船の前方に設置したポール先端のワイヤーから、水中にプログラムされた周期と波形で電気を送ることで、魚を一時的に気絶させて捕獲します。曾根沼では、オオクチバスの駆除を継続して行った結果（図2）、ニゴロブナ、ホンモロコなど琵琶湖の固有種

を含む多くのコイ科魚類が増加傾向にあることがわかりました（図3）。

全国内水面漁業協同組合連合会では、電気ショックボートの貸し出しを行っていて、現在も全国の湖沼で活躍中です。マニュアルには他にも、電気曳き縄や水中銃など、許可を取れば高い捕獲効率で駆除を実施できる手法がたくさん掲載されています。こうした適材適所の駆除活動を通じて、在来魚資源の増殖が期待されています。

参考文献

「誰でもできる外来魚駆除（平成27年3月 水産庁）」
<http://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/pdf/gairaiogyo.pdf>



図1 電気ショックボートによるオオクチバスの駆除
（撮影：滋賀県水産試験場佐野聡哉氏）

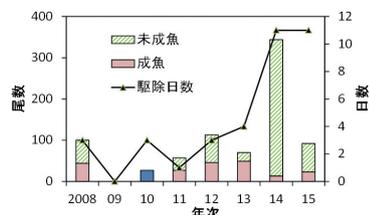


図2 電気ショックボートによる駆除日数とオオクチバスの駆除尾数

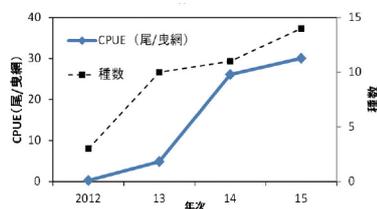


図3 小型曳き網で捕獲された在来魚のCPUEと種数